

トピック展の見どころ②

摩訶不思議な香炉型土器

トピック展「足元に眠っていた歴史ー八幡平市の東北自動車道遺跡ー」を開催中です。昭和50年代の東北自動車道建設工事に伴い、発掘調査が行われた市内20遺跡のうち、14遺跡の土器を中心に、出土資料約110点を展示しています。

多種多彩な展示資料の中でもひととき来館者の注目を集めているのは、安代地区浅沢地域の水神遺跡の土坑跡(食料となる木の実などを保存する貯蔵穴)から、ほぼ完全な形で出土した「香炉型土器」です。仏具の香炉に似ていることからその名で呼ばれています。

全高19センチで、縄文時代後期後葉(約4,000~3,500年前)の土器に分類されます。同時期の他の土器に比べて出土例は少なく、土器や石器など約35,000点(完形の物や破片などを含む)を出土した水神遺跡でも、香炉型土器はわずかに1個のみです。



正面



横

香炉型土器は、脚台を持つ器の上部にアーチや覆いが付くユニークな形をしています。火をたいた痕跡は見られず、現在でもその用途は不明のままです。竪穴住居の床面に置かれた特殊な出土例も見られることから、祭りで使用する特別な土器だったのではないかと考えられます。

■期間 3月29日(金)まで

読書マラソンの結果発表

朗読を楽しむ会を開催しました

2月3日に朗読を楽しむ会および読書マラソン表彰式を行いました。



作者が元気に受賞作品を朗読

朗読を楽しむ会では、第21回少年少女の詩「江間章子賞」の受賞作品から6作品が、詩の作者である児童・生徒によって元気に読み上げられ、会場は温かい拍手に包まれました。

表彰式後、市朗読奉仕ほおずきの会は、群読「王子とこじき」や紙芝居「オニのごちそう」などを披露し、来場者は聞き入っていました。

◆平成30年度読書マラソン結果

昨年7月20日から12月27日にかけて開かれた「読書マラソン」の結果を発表します。

読書マラソンは、期間中に読んだ本の冊数を競うものです。30年度は93人が参加。期間中の総貸出冊数は、前回の約2倍となる5,993冊でした。



読書マラソンで表彰された皆さん

各部門の優勝者とその貸出冊数は、次の通りです。

部門	優勝者・貸出冊数
幼児読み聞かせの部	藤村紗南ちゃん(下町二区)・594冊
児童1・2年の部	中塚紗良さん(両沼)・382冊
児童3・4年の部	高橋花恵さん(五百森)・242冊
児童5・6年の部	中塚紗江さん(両沼)・301冊
大人の部	高橋宗喜さん(南平笠)・251冊